

## あ と が き

この報告書に成果をまとめたのは、国立国語研究所の次の調査研究課題である。

- (1) 分かりにくい外来語の言い換え提案（平成14年度～平成17年度）
- (2) 日本語の現在：実態調査，意識調査（平成15年度～平成17年度）
- (3) 公共的コミュニケーションの円滑化のための調査研究と資料の提供：外来語等の平明化  
(平成18年度)

(1)(2)は、独立行政法人国立国語研究所の第1期中期計画（平成13年度～平成17年度）の課題、(3)は第2期中期計画（平成18年度～平成22年度）の課題である。

上記の課題には、本書の執筆を担当した研究員（「執筆者一覧」を参照）のほか、次の研究者も、調査研究の企画や実施に、深くかかわった（所属・職名は、甲斐氏以外は、平成19年3月現在）。

甲斐睦朗	国立国語研究所・所長（平成17年3月まで）
杉戸清樹	国立国語研究所・所長（平成17年4月から）
吉岡泰夫	国立国語研究所研究開発部門・上席研究員
米田正人	国立国語研究所情報資料部門・上席研究員
山崎 誠	国立国語研究所研究開発部門言語資源グループ・グループ長
朝日祥之	国立国語研究所研究開発部門言語生活グループ・研究員

また、所外協力者として、次の方々にも、調査研究の企画・実施の段階で参加をお願いし、有益な御教示をいただいた（所属・職名は、平成19年3月現在）。

陣内正敬	関西学院大学総合政策学部・教授
田中ゆかり	日本大学文理学部・教授
半沢 康	福島大学教育学部人文社会学群・助教授
吉野諒三	統計数理研究所データ科学研究系・教授

なお、この調査研究は、国立国語研究所「外来語」委員会による「外来語」言い換え提案と深いかわりを持つものであり、「外来語」委員会における議論の成果も、この報告書の中に様々な形で取り込まれている。「外来語」委員会の委員は、次の通りである（所属・職名は、委員在任中のもの）。

委員長	甲斐睦朗	国立国語研究所・所長（平成17年3月まで）
委員長	杉戸清樹	国立国語研究所・所長（平成17年4月から）
副委員長	水谷 修	名古屋外国語大学・学長
副委員長	中西 進	京都市立芸術大学・学長
委員	相澤正夫	国立国語研究所研究開発部門・部門長
	阿辻哲次	京都大学大学院人間環境学研究科・教授
	加藤安彦	国立国語研究所研究開発部門第一領域・領域長（平成15年3月まで）
	倉島節尚	大正大学文学部・教授
	神津十月	作家
	古賀節子	青山学院大学・名誉教授
	興水 優	東京外国語大学・名誉教授
	小森政道	小学館コミュニケーション編集局・次長（平成17年3月まで）
	佐藤 宏	小学館コミュニケーション編集局・国語辞典編集部・部長（平成17年4月から）
	柴田 実	NHK放送文化研究所用語研究班・主任研究員，解説委員
	陣内正敬	関西学院大学総合政策学部・教授

関根健一 読売新聞東京本社用語委員会・幹事  
田中牧郎 国立国語研究所研究開発部門第一領域・主任研究員  
鳥飼玖美子 立教大学観光学部異文化コミュニケーション研究科・教授  
中山恵利子 阪南大学国際コミュニケーション学部・教授  
長谷川真理子 総合研究大学院大学葉山高等研究センター・教授  
福田 亮 朝日新聞東京本社校閲センター・次長，用語幹事補佐  
松岡和子 翻訳家，演劇評論家  
山崎 誠 国立国語研究所研究開発部門第一領域・領域長（平成15年4月から）

本書の編集発行については，所内に刊行物検討委員会を設置し，内容や発行形態について検討を加えた。委員は次の通りである（所属・職名は，平成19年3月現在）。

委員長 相澤正夫 国立国語研究所研究開発部門・部門長  
委員 井上 優 国立国語研究所日本語教育基盤情報センター用法用例辞書グループ・グループ長  
森本祥子 国立国語研究所情報資料部門資料整備グループ・研究員  
田中牧郎 国立国語研究所研究開発部門言語問題グループ・グループ長

最後に，この報告書をまとめるまでの調査研究の様々な段階で，多くのアルバイトの皆さんの，精度の高い作業による多大な貢献があったことを，感謝の気持ちとともに記しておきたい。

平成 19年 3月

田中 牧郎